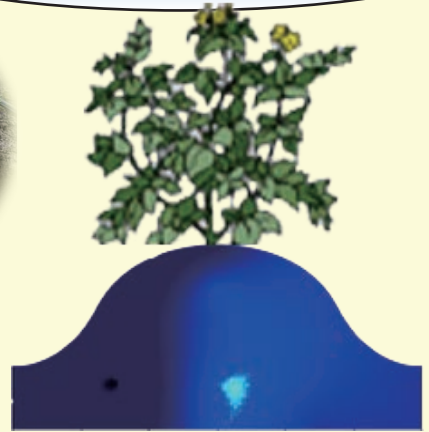
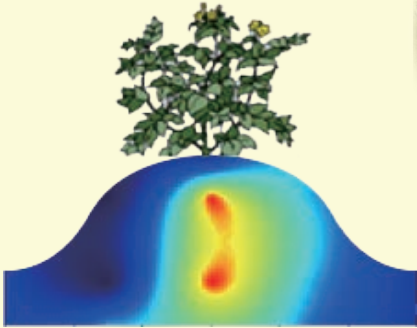


イリゲイド51

土壌中の水分を最適にして生育を揃え、品質、収量アップ!!

無処理(水のみ)

イリゲイド処理



乾燥 ← 土壌水分 → 湿潤



無処理に比べ
土壌が
しっとりしています!



水が表面や抵抗の少ない箇所にだけ流れ、
過湿や乾燥部分が出来てしまう

水が均一に行き渡り、最適な水分状態になる

- 水を土壌内部まで浸透させ、速く広く深くさらに均一に行き渡らせる剤です。
- 肥料等の資材が均一に行き渡ることによって利用効率が向上し、農作物の生育が揃い生産性が高まります。
- 液肥との相性が良いので、混用が容易で凝集や分離は起きません。
- 土壌中の通気性が良くなることで空気の交換性を高め、土壌中の水と空気のバランスが良くなり、植物の生育を促進します。
- 土壌表面の水はけを良くし、余分な水を排水させます。

日本特許 第4160507号

販売店



株式会社

アクトロールス社品 総発売元
トモグリーンケミカル

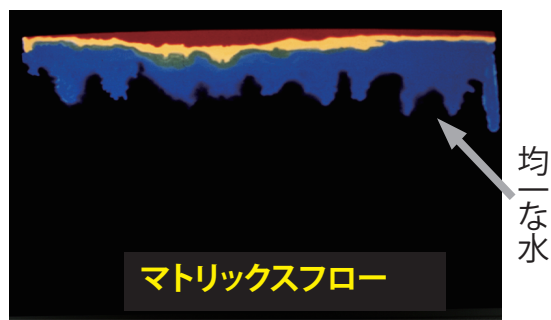
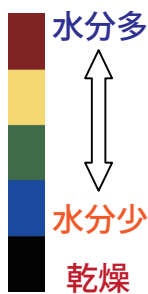
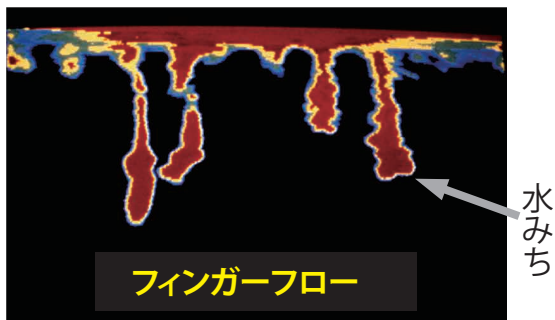
〒426-0816 静岡県葵区沓谷五丁目9番地の12

TEL <054>264-2151 FAX <054>264-2153

<http://www.tomo-green.com/>

土壌中の水の動き

土壌断面の水分の分布を色で示しました



水は抵抗の少ない限られた場所に浸み、**水みち**になります。
水や肥料等が無駄になります。

水が**均一**に浸透しています。
土壌用界面活性剤は均一に水を浸透させます。



ハス口で散水：撥水が生じている土壌では、
水が表面を流れ、**水が浸み込みません**。



砂質土壌に、イリゲイドの希釈液と水のみを一定量滴下して
土壌断面の水の拡がりを観察：
水のみと比較して、水が**速く、広く**拡がっています。

使用方法

標準使用量：80～330ml/10a/月 = 0.08～0.33ml/m²/月

- ・灌水システムを通して処理したり、動力噴霧機等で希釈液を土壌に散布します。
- ・液肥混入機を使用する場合は、3倍以上に希釈して混入してください。
- ・播種又は定植時から定期的に処理を行います。
- ・降雨の前に処理するか、処理後に灌水を行うと効果的です。

(使用例) 1ヶ月に1回、5,000倍 1000 μ を 10a の土壌に散布(200ml/10a/月)
2週間に1回、10,000倍 1000 μ を 10a の土壌に散布(200ml/10a/月)
1ヶ月に1回、200ml を 10 μ の水に希釈して液肥混入機で 10a の土壌に
点滴灌水(200ml/10a/月)

※上記は使用例です。使い方により回数、使用量、水量を調整して下さい。

成分・性状

- ・非イオン界面活性剤：アルキレーテッドポリオール 30%
グルコエーテル 21%
- ・褐色のやや粘性を有する液体

包装

・500ml×12袋



米国アクアトロール社製

